

平成29年度 エネルギー講演会開催概要

「国際情勢と日本のエネルギー問題」

講師 ケント・ギルバート氏
(米カリフォルニア州弁護士、タレント)



(一社)九州経済連合会 九州エネルギー問題懇話会

1. ケント・ギルバート氏の自己紹介

- ✓ ケント・ギルバート氏は昭和46年、19歳の時に初来日。福岡市内に住んでいた。その後、北九州、佐世保にも住んでおり、九州には縁がある。
- ✓ 大学在学中に、沖縄海洋博覧会のスタッフとして来日した。第2次オイルショックの影響で規模が縮小された。
- ✓ 高校の授業の時に日本の発電は水力が中心であると習っていたが、この来日時に、当時の日本の発電の中心が火力になっている事を知った。

2. アメリカの情勢について

- ✓ アメリカは本来、資源を自給できるが、いつの間にか中近東に依存するようになった。
- ✓ 湾岸戦争は石油利権が絡んで起きたという見方があるが、バランスのとれたエネルギー資源の確保が平和のための条件。
- ✓ トランプ政権がパリ協定離脱を正式表明しているが、米国内の企業は世界と同じ方向を向いて企業活動を行っているので、あまり影響はないと思う。
- ✓ トランプ大統領は温暖化懐疑論者である。地球レベルの長いスパンで起きている気候変動を産業革命後のトレンドだけで温暖化が起きているとして経済活動に縛りをつけるのは早計であるとする。
- ✓ 連邦政府がパリ協定に反対しても、米国の場合、州が規制を行う。例えば、カリフォルニア州では環境規制を強めた結果、今では多くの電気自動車が走るようになってる。
- ✓ 最近シェールオイル、シェールガスが出てきたので、アメリカの中東依存度が下がった。冬は1日中暖房をつけていても、暖房代は月1万5千円くらいだ。

3. エネルギー消費と豊かさについて

- ✓ 住環境計画研究所の中上会長によると、一般的にエネルギー消費と豊かさは比例している。
- ✓ ところが、寝ている間、テレビをつけっぱなしにしても豊かさには繋がらず「無駄」な消費が出るのみ。
- ✓ 一方、生活レベルを下げてまで省エネを行う人がいる。この様な「我慢」は長続きしない。
- ✓ 工夫をすれば、さほど電気を使わなくても豊かさを確保できる。省エネはエネルギーを使わない事ではなく、上手に使う事。
e.g. ケントギルバート氏のご自宅は、断熱材や二重窓を使うなどの工夫をしている。



4. 日本のエネルギーについて

- ✓ 日本のエネルギー自給率は6%。オイルショックの時でも12%あった。あの時よりも悪い状態。
- ✓ 先日、北海道電力の泊発電所を見学した。3基で北海道全体の4割を賄える。
- ✓ 泊発電所へは過去にも行ったことがあるが、セキュリティの強化が印象的だった。横須賀の米軍基地並みのセキュリティーだった。
- ✓ 大規模な船は沈没防止のため船倉が仕切られて、区画間は水密扉で塞がれているが、原子力発電所も重要機器エリアは水密扉で塞ぎ、津波対策を行っている。
- ✓ 長期エネルギー需給見通しでは2030年の電源構成比で原子力が2割となっている。私も原子力は必要だと思う。

5. ProactiveとReactive

- ✓ Proactiveとは起こった事に対応する事を待つのではなく、能動的に事態を掌握する事。

e.g. 日本人が外国人と街で出会ったときに、話しかけられたくないから目線をそらそうとするので会話が成立しないが、外国人から片言でもいいので日本語で話しかけると、短いながらも会話が成立する。

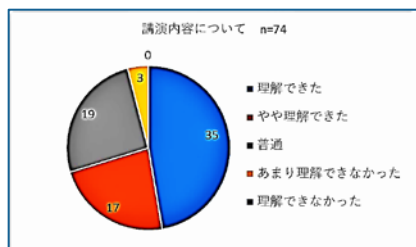


- ✓ Reactiveとは、受け身で事態に対応する事。
e.g. ファーストフード店でハンバーガー50個を頼んだ時「こちらでお召し上がりですか」と聞いてくる様にマニュアル通りの仕事しかしない事。
- ✓ マニュアルは最低レベルの仕事で、それ以上の仕事をしないと成果は出ない。
- ✓ 航空会社での安全装置の紹介におけるproactiveの例。
- ✓ アメリカの航空会社には、客室乗務員がレディガガの音楽に合わせて踊りながら安全装置の説明をしているところがある。乗客はみんなしっかり説明を見ており、本を読んでいる者などいない。
- ✓ 日本の大手の航空会社はこの様な事はやっていないが、国内のLCCの中には、マニュアルには書かれていない機内アナウンスを行い、上手に乗客の関心を惹いている例がある。
- ✓ Proactiveでは、この様な、一人ひとりが現場で信頼できるような判断を行えるような人材づくりが必要。

【アンケート結果】

今回の講演会では、多くの方にアンケートにご協力いただきました。その概要をご紹介します。

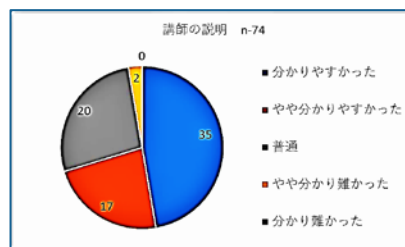
Q1 講演の内容は理解できましたか。



〔主なコメント〕

- 「難しいのは正當に怖がること」などの言葉が印象に残りました。
- 身近な例から話を始められるのでわかりやすかった。
- 幅広い内容の話して、楽しく聴講できた。

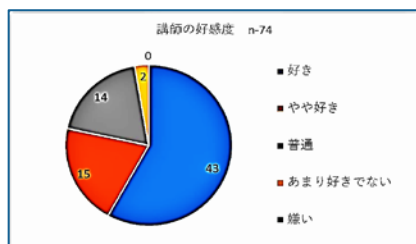
Q2 講師の話し方は分かりやすかったですか。



〔主なコメント〕

- 講師の特徴が良く出ていて面白かった。
- 余談が多すぎて…。でも例え話は面白かった。
- もう少し掘り下げた内容も聞いてみたかった。

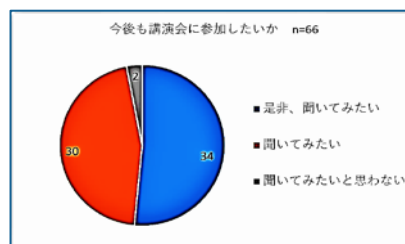
Q3 講師の印象はいかがですか。



〔主なコメント〕

- TVなどのメディアでもなじみがあり好感が持てる。
- 堅苦しくなくフランクな感じでも印象が良かった。
- 学者と違って表現が面白い。

Q4 今後も当講演会に参加したいですか。



〔主なコメント〕

- 今後も聞いてみたい。
- 非常に面白かったが、次は専門的な話しも聞いてみたい。
- エネルギーについて立場の違う人の話しも聞いてみたい。

Q5 ご意見・ご要望

- 今回の様に、面白い話を交えながらの講演をして頂けるとありがたいです。
- 福島の事故の生の声を聞きたい。
- 九州の再生可能エネルギーの現状について聞いてみたい。
- 新エネ省エネの最新事例を聞いてみたい。
- エネルギーに関する基本的な勉強の話しも聞いてみたい。

【実施概要】

- 実施日時 平成29年6月22日(木) 14:00~16:00
 - 場所 電気ビル共創館 カンファレンスA (福岡市)
 - 講師 ケント・ギルバート氏 (米カリフォルニア州弁護士、タレント)
 - 演題 国際情勢と日本のエネルギー問題
 - 来場者数 130名
- 主催 (一社)九州経済連合会 後援 福岡商工会議所、福岡経済同友会 協賛 (株)電気ビル